平成　25　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271401467		
法人名	有限会社　口加メディカルサービス		
事業所名	グループホーム　たちばな	ユニット名	
所在地	長崎県南島原市加津佐町己2151番地5		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	平成２５年１１月２９日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人　福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1　博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成２５年１０月８日	評価確定日	平成25年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様の意思を尊重し、出来うる限りその日その時したい事を
自由にしていただけるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホームたちばな”はホームの裏手に畑や山があり、居室から外の景色を眺める事ができる。母体病院との連携も取れ、往診の回数も増えており、毎週の訪問看護も継続されている。病院にリハビリに行かれる方もおられ、日常生活の中では、ご利用者が食事の下ごしらえや配膳、食器洗い等を自主的にして下さり、日々の役割を担って下さっている。天気の良い日は外で日向ぼっこをされたり、ホーム周辺のお散歩を楽しまれ、25年夏に車椅子対応の車が納車された事もあり、外出の機会も増えている。ご利用者の心身状況により、全員での外出が困難になってきているが、買い物に出かけたり、関連施設への行事や地域の催し物への参加、季節のお花見等のドライブに出かけている。両ユニットの管理者を中心に、地道に職員のチームワーク作りに努めてこられ、業務を効率良く行うための手順の見直しも行われた。職員の個別面談も行われ、職員個々の特技を発揮して頂く機会も増やしており、今後も”健康で明るい自分らしい生活の支援“を目指し、更なるチームワーク力を高めていく予定にしている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のもとに家庭的な環境でその人らしく生活出来るよう支援している。	「・・健康で明るい、自分らしい生活の支援をいたします」という理念のもと、ご利用者の思いを把握し、ご利用者のペースで生活して頂けるように努めている。心身状況に応じた個別支援が行われており、管理者が職員を褒める機会も多く、職員の気づきも増えている。	職員のチームワークが必要であると考えており、周囲へのアンテナを貼り、全体でのチーム力を強めていく予定である。時に職員の言葉が強くなる時もあり、勤務のシフトによるストレスも配慮し、職員個々の能力が発揮できる環境を作っていきたいと考えている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている祭りや避難訓練に参加することで地域の方との交流を持っている。	24年4月に自治会長が変わり、災害時などに黄色いﾊﾝｶﾁを玄関に出すｼｽﾃﾑが作られたり、避難場所の再確認と共にﾊｻﾞｰﾄﾞﾏｯﾌﾟも作られた。町内会に加入し、年度会議や地域の除草活動等にご利用者と参加している。中学生の福祉体験学習の受け入れや、関連施設の行事に参加し、保育園児との交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族様の面会時や推進会議での会話はあるが、地域の方々へは活かしきれていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議の中で、当施設の現状報告、参加された方からの意見を参考にサービスの向上に活かしている。	行事に関する報告と共に、自治会のゴミ回収に関する情報や地域情報も共有し、高齢者に対する見守り支援や認知症ｻﾎﾟｰﾀｰ養成研修講座の紹介も行われている。会議では“地域ぐるみで”と言う言葉が何回も聞かれ、災害対策等の意見交換も活発で、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加していただき意見交換することによりサービスの向上に努めている。	地域包括の所長が運営推進会議に参加して下さり、介護保険制度の説明や成年後見ｾﾝﾀｰ開設の説明もして下さった。空室情報の提供も行い、地域包括を訪問して状況報告している。役場支所に更新手続きに行った際にも、役場への提出書類等の内容について相談し、ｱﾄﾞﾊﾞｲｽを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については理解している。玄関の施錠については国道に面している為、外出の希望がある場合はスタッフ付き添いのもと開錠している。	身体拘束は行っていない事を入居時に家族に伝え、転倒などのリスクも説明している。必要に応じて移動しやすい居室に変わる支援も行われている。表の玄関は車の通りが多いために施錠しているが、裏口の玄関は開けており、自由に外出できている。ご本人の不安な気持ちに寄り添い、散歩等に同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会やシンポジウムへの参加で理解を深めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一応理解はしているが、全スタッフが理解しているとは言えない。利用した機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定の際は理解してもらえるよう説明し納得していただいている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置をしているが意見はほぼない。面会時に意見等聞くようにこころがけている。	開設以来、家族とも長年のお付き合いとなっている。お便りも再開され、写真も同封し日頃の近況報告を行っており、面会時等にお話を伺い、管理者も個別に相談を受けている。体調への心配や受診支援の困難さ等の相談を受け、車いす対応の車両を導入し、ホーム側で受診支援を行う取り組みも行われた。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを活用し意見を集め共有している。	会議（毎月）と日々の朝礼を行い、ご利用者の状態変化に対する見守り等の意見交換や、業務を効率よく行うための手順の見直しも行われた。個別面談も行われ、職員個々にｹｰｷ作りや飾り付け、畑仕事などの得意な分野も発揮して頂いている。今後も更なるﾁｰﾑﾜｰｸを強化していく予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より職員個々の評価や事業所の運営状況を報告し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加の機会を作り、技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議を通じて、他施設や地域包括と連絡を取り、サービスの向上を目指している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に分からなかった事でも、日々の生活の中で安心していただけるような関係作りに努め要望等聞けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して生活していただけるよう信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望等を聞き出来る事はしている。当施設で対応出来ない事は関係機関と協力を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で色々と教えていただく事もあり、お互いに良い関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフと家族様で支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会へはいつでも気軽に来ていただけるようにしている。また、地域の行事に参加し、馴染みの方との触れ合いが出来るように努めている。	日頃の会話の中で、馴染みの人や場所を把握するようにしている。ﾎｰﾑの電話で知人や親類に電話をかけたり、昔よく通っていた場所などにﾄﾞﾗｲﾌﾞに出かけている。家族に協力して頂き、自宅や美容室、お墓参りに行かれる方もおられる。車椅子対応の車両を導入し、今後も更に外出頻度を増やす予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流が苦手な方にはスタッフが中に入り、入居者様同士の関わりを大事にしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関連施設へ移られた方への面会時に会話・近況等を聞き支援出来るよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当施設で可能な事については出来る限りの支援に努めている。	関連施設の管理者からもｱﾄﾞﾊﾞｲｽを受けながら、入居前の生活歴や家族関係、趣味等の情報把握を続けている。ご本人の要望も大切に、その方に適した支援を続けている。日常の中でゆっくりと会話を楽しみ、全社協版を使用し、ご本人のできる事やお好きな事も把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や入居されてからの生活で把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活リズムや状態の変化をもとに把握している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様の希望を聞き現状に合わせた介護計画を立てている。	ご利用者と家族の意見を基に、計画作成者が計画の原案を作成し、担当者を中心に職員全員で話し合いをしている。訪問看護師の意見も計画に盛り込み、日々のｹｱに活かしている。健康面にも配慮し、ﾘﾊﾋﾞﾘや楽しみ、精神面等にも配慮した計画が作られている。	今後も“生活に対する意向（望む暮らし）”を把握していくと共に、ご本人の力が発揮される計画作りに努めていく予定である。“ご本人本位の計画”と言う視点も大切に、表現の仕方にも配慮していく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を観察・記録し、情報を共有して実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設で出来る事は希望に沿えるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に参加し、今までの関係が維持できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がある場合や専門的な治療を受ける場合は柔軟に対応している。	往診の回数も増え、主治医に相談できる機会が増えている。職員が受診同行し(専門科には家族が同行)、受診結果の共有もできている。食事介助も増えており、訪問看護師と連携を図り、異常の早期発見に努めると共に、緊急時は協力医療機関に受診できる。重度化予防のため、ﾘﾊﾋﾞﾘに行かれる方もおられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と情報交換・相談をしアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力機関と情報交換をし、適切なケアが出来るような関係作りが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けた指針の説明を行い、同意を頂いているが、実際には重度化された場合は病院へ転院されている。	看取りｹｱを行う方針であり、「看取りに関する指針」を家族に説明し、同意を頂いている。口乃津病院との医療連携が安心で入居される方も多く、最期は病院への転院を希望される事もあり、終末期ｹｱの経験はない。往診体制もあり、訪問看護師からのｱﾄﾞﾊﾞｲｽで職員の観察力も高くなっており、食事が全介助の方もおられるが、丁寧なｹｱが行われている。	「ここでずっと・・」と言う方もおられる。終末期ケアの経験が少ない職員もおられ、訪問看護師から講義をして頂く機会を作られたり、法人全体の研修への参加の機会を通して、終末期ケアや急変時の対応などの知識を深めていく予定である。ご本人と家族の思いにも寄り添い、意向の把握を続けていく予定である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期マニュアルは作成しているが、全スタッフが実践出来る能力が身についているとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での避難訓練や自治会を含めた訓練を行っている。	自主訓練と合わせ、消防署や近隣の方にも協力を頂き、昼夜想定の訓練を行うと共に、自治会の地域防災訓練にも参加している。災害時は同法人の老健施設に避難する等、協力体制があり、食料や20ﾘｯﾄﾙのﾎﾟﾘﾀﾝｸを準備している。消防団との連携もできており、誘導時のｱﾄﾞﾊﾞｲｽも頂いている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーを損ねないような言葉かけを心がけている。	生活歴の把握に努め、常に思いやりを持って、ご利用者のお気持ちに寄り添うように努めている。ご利用者のﾍﾟｰｽを尊重すると共に、意思決定の機会も大切にしている。言葉遣いが気になる時は管理者が注意している。職員は廊下に座って記録をしているが、記録終了時は必ず書類を直すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の意思を尊重し、本人様の思いを大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者様の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えなど本人様と一緒に選び、本人様が愛用されている物を使って頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者様が出来る範囲の事をして頂いている。	3食とも手作りしている。料理の下ごしらえや配膳、食器洗い等もして下さり、干し柿も一緒に作られている。誕生会は両ﾕﾆｯﾄ合同で、管理者自らがｹｰｷ等を焼いて下さり、美味しく食べられている。食事介助が必要な方が増えている中、職員も介助しながら一緒に食べており、お弁当を作って外で食べる機会も作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様それぞれの状態を考え食事を提供している。必要な方には訪問看護師と相談のうえで栄養補助食品も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来ない入居者様は介助を行い、自力で出来る入居者様にもお声かけしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なお声かけ・トイレ誘導により失敗の回数を減らせるよう努めている。	一人ひとりの排泄感覚を把握し、できるだけﾄｲﾚで排泄して頂けるよう支援している。排泄が自立し、ご自分で下着を手洗いされる方もおられる。排泄状況を記録に残し、早めに声かけをしており、夜間、紙ｵﾑﾂ使用の方が、ﾄｲﾚ誘導でﾘﾊﾋﾞﾘﾊﾟﾝﾂに変更できた方もおられる。市からの指導もあり、手拭きﾀｵﾙをﾍﾟｰﾊﾟｰに変更された。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師・医師に相談し、服薬や摘便で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まっている曜日以外でも希望があれば入浴出来るよう支援している。時間帯までは、今のところ難しい。	Aユニットのお風呂を利用しており、職員２人体制での介助も行われている。季節に応じて菖蒲湯、柚子湯も楽しまれ、入浴を好まれない方には声かけを工夫したり、足浴を実施し、お湯の気持ち良さを感じて頂いている。入浴時は会話を楽しまれ、昔話をして下さる方も多く、お風呂好きな方が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転がない程度で本人様の希望に沿っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用については全職員が理解しているとは言えないので日々の情報交換が必要。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いをお願いしたり、花の観察等をされ各入居者様が楽しんで生活出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望に沿って外出できるよう支援している。家族様の希望があればいつでも外出・外泊できるようにしている。	天気の良い日は外で日向ぼっこをしたり、周辺の散歩を楽しまれている。ご利用者の心身状況により、全員での外出が困難になっているが、25年夏に車椅子対応の車が納車され、外出の機会も増えている。市内の商業施設や薬局に買い物に出かけたり、関連施設への行事や地域の催し物、お祭り見学、ﾄﾞﾗｲﾌﾞ等を楽しまれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所の金庫にて管理しているが、家族様・本人様の希望がありご自身で管理されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当施設の電話で家族様・知人の方と連絡を取られる方や、本人様所有の携帯電話で連絡を取られている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現状の設備の中で快適に過ごしていただけるよう努めている。	Aﾕﾆｯﾄは民家改築、Bﾕﾆｯﾄは増築されたﾕﾆｯﾄであり、両ﾕﾆｯﾄの間にﾃﾗｽもあり、日々交流が行われている。冷暖房も新しくなり、温湿度計で温度調整をしながら、快適に過ごして頂いている。ｽﾄﾛｰで作ったﾄﾝﾎﾞや、職員が摘んでこられた季節の花が飾られ、季節感を感じて頂いている。掃除の徹底と共に、ｽﾘｯﾊﾟ等の備品の管理も配慮していく予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者様は個室なので一人になれる場所がある。また、自身の居室に他入居者様を招待され楽しまれたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が今まで使ってこられた物を持参して頂き、本人様が安心して過ごして頂けるよう努めている。	電動ﾍﾞｯﾄﾞが準備されている。ご利用者個々にﾃﾚﾋﾞや冷蔵庫、ｲｽなどを持参し、ぬいぐるみや動物の置き物等を飾られている。家族が買って来られる本をﾍﾞｯﾄﾞ上で読まれたり、ﾐｻﾝｶﾞを作る方もおられ、洗面台で下着の洗濯をされたり、観葉植物に水やりをされる方など、ご自分のﾍﾟｰｽで生活されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室より共用スペースの食堂、もしくわ玄関に通じる通路には手すりが備えてあり自立した生活が送れるように工夫してある。		